

タイの基本情報 - 人口動態 (1/2)

- タイの人口は 2019 年時点で約 6,980 万人であり、**直近 10 年の人口成長率は 0.2%～0.4% とほぼ横ばい。**
- 1970年代以前、タイの合計特殊出生率は5を上回る水準が続いており、総人口も毎年3%程度の増加が続いていたが、一人当たりの医療・教育支出を増やすために政府が産児数を抑制する家族計画を奨励し、**出生率は1970年代入り後から急低下し始めた。**
- エイズを始めとする性感染症予防への取り組みも進められて避妊具の使用も一般化し、**計画外の出産が大幅に減少。**¹⁻³ 出生率は 1990 年代前半に人口置換水準の目安とされる 2.1 を下回る水準まで低下。
- 中国やベトナムと異なり、タイでは厳格な産児制限が実施されなかったにもかかわらず、出生率のコントロールに成功した。これは、1974 年に設立された PDA (Population and Community Development Association) による草の根レベルでの家族計画奨励キャンペーンによるもの。PDA は、それまで家族計画がタブー視されていた農村部でも避妊具の使用を奨励するキャンペーンを展開し、地方の人々の家族計画に対する認識を改めることに成功した。
- ライフスタイルの多様化に伴う未婚化・晩婚化は世界的な現象であり、所得水準の上昇とともに出生率が低下する傾向がみられるが、**タイの出生率は同程度の所得水準の国と比べても低い。**⁴

出所：

1. THE WORLD BANK. Population, total – Thailand. <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL?locations=TH>. Accessed on Jan. 25, 2022
2. THE WORLD BANK. Population growth (annual %) - Thailand. <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.GROW?locations=TH>. Accessed on Jan. 25, 2022
3. IMF(2016)“Thailand : 2016Article IV Consultation” IMF Country Report No. 16/139
4. McGraw-Hill Education [2014] “Case study, Family Planning in Thailand: A Success Story”
http://www.mhhe.com/EnviroSci/CaseStudyLibrary/International/CaseStudy_Family%20Planning%20in%20Thailand.pdf

タイの基本情報 - 人口動態（2/2）

- 政府は少子化に歯止めをかけるべく、子供一人当たり年間3万バーツとなっている子女の教育にかかわる所得税控除枠の上限を、2人目以降は6万バーツに拡大するなど、税制優遇措置の拡大などの取り組みを進めている。しかしながら依然出生率は上昇に転じていない。
- 少子化が進む一方で、医療技術の向上や医療サービスへのアクセスの改善などにより、平均寿命は 1970年代前半の男性58歳・女性63歳から、足元では男性71歳・女性78歳と、アジア新興国のなかでも速いペースで延伸した。2002年に初診料30バーツで幅広い治療を受けることができる、いわゆる「30バーツ医療制度」が導入されたことで、**低所得者の医療サービスへのアクセスが大幅に改善された**ことも平均寿命の延伸に寄与。
- 今後の高度な医療技術の普及や人々の健康意識の高まりなどにより、平均寿命は2030 年にかけて男性75歳・女性82歳に一段と延伸すると見込まれている。これらを受けて、総人口に占める65歳以上人口は現在の約 1 割から2030 年代には2 割を上回り、**アジア主要新興国のなかで最も速いペースで高齢化が進むと予想**されている。
- タイの人口動態の変化は、日本の1985年から2005年にかけての変化に相当する。しかし、日本の一人当たり名目GDPは1980年後半に2万ドル台後半であったのに対し、タイの所得水準は7,000ドル弱に過ぎない。これは、極めて早い段階で高齢化という問題に直面することを意味している。